

浜田市議会議長様

サン・ビレッジ浜田アイススケート場の施設の方向性について、計画的な調査・検討とその説明を求める陳情

サン・ビレッジ浜田アイススケート場は、冷凍機の老朽化・故障の影響で、ここ数年は条例で定める開場期間（10月10日から5月6日）営業できていません。

浜田市スポーツ施設再配置・整備計画では、サン・ビレッジ浜田アイススケート場について、「令和3年度および令和4年度の2か年の利用実績において、急激に利用者数が増え、令和5年度以降においても増えた利用者数が、継続的に見込まれる場合は、令和5年度において用途変更としている計画について、見直しの検討を行うものとする。」とされていますが、学生時代にサン・ビレッジ浜田のスケート場に広島から練習に通っておられた、ソチオリンピック日本代表の町田樹さんの請願書や地元のスケート競技団体の陳情書提出を受け、昨年久保田市長は「あった方が良いが、費用のこともある。外部から人を呼び込む施設として再度検討する。」と回答下さいました。

もともとスポーツ施設再配置・整備計画をどうするかが話し合われた「浜田市スポーツ推進審議会」では、スケート場を「冷凍機が老朽化していて、フロンの問題がある。」「冷凍機の更新に多額の費用がかかる。」「ピーク時に比べて利用者数が半減している。」「人口や面積が似ている市（類似団体）にはスケート場がないから浜田市の適正数は0である」といった理由で施設の方向性を「用途変更」とされていました。しかし、当時、冷凍機を現在の省エネ型に更新した場合の光熱費の軽減効果や、用途変更の場合の多目的室内広場に対する需要や改修の内容、改修費用等についてはきちんと文書による照会や調査を行っておらず、必要な資料、数字も示されていませんでした。

また、変更後の用途や利用見込みもはっきり説明できない状態で「用途変更する」という方向性が決定されたことにも問題があり、このまま用途変更すれば、現在ある多くの市民や市内小学校・保育園等による利用、現在ある周辺市町や県外からの利用、カーリングの西日本大会利用　といった需要に応えられなくなり、数千人の交流人口や関係人口を失い、施設の用途変更に大きな費用がかかり、作ってみたけど利用がわずかしかなく、結果、市民のスポーツの選択肢、機会を無くした　というように残念な結果だけが残ることになりかねません。毎年多くの市民が利用しているスケート場を用途変更するという決定を行うには、判断材料不足で必要な議論が行われていないと言えます。

冷凍機の更新や照明のLED化に係る費用と、更新を行った場合のランニングコストを令和3年にメーカーの資料を基に教育委員会が算出していますが、当時の試算でランニングコストは年間470万円以上減るという試算でした。原油や電力料金がそ

の後高騰しており、ランニングコストの差は、現在では年間 600 万円程度になっていると思われます。更新に係る費用が 1 億 4000 万円と見積もられており、これも現在は上昇している可能性もあり、再度見積りを取得することは必要ですが、冷凍機は 25 年以上使っているため、仮に年間 600 万円ランニングコストが軽減するならば、25 年間で 1 億 5 000 万円です。収支が改善すれば、指定管理料を圧縮できるため、このまま灯油を炊いて現在の冷凍機を使い続ける場合と比べて、利用期間、利用料金収入、ランニングコスト削減、CO2 排出量削減（年間約 60 t-CO2 削減できる）、すべてにとってプラスになります。環境省や経済産業省の補助金が無いということですが、耐用年数（25 年）かけてランニングコストの軽減分（年間 600 万円）でイニシャルコスト（1 億 5000 万円）を吸収できるなら、市が設備投資にかけた費用は回収されるということになります。このような効果は東公園野球場の電光掲示板更新、陸上競技場の定期的な地盤沈下修繕等では得られないため、費用対効果はどのスポーツ施設の大規模修繕よりも大きいと言えます。

また、国府小学校、浜田東中学校出身で小学生、中学生、高校生の間サン・ビレッジ浜田で練習してきた選手が、来月行われる全日本フィギュアスケート選手権大会 2022 に出場することが決まりました。全日本選手権は、世界大会の選考会を兼ねフィギュアスケート日本一を決める大会で、男子は 32 名ほどしか出場できないため、国体やインターハイに出場しても、全日本選手権には出場がかなわない選手も多い大会です。サン・ビレッジ浜田で練習して出場するのは、町田樹さん以来で、浜田市出身の選手としては初めてだと思います。地元のスケート競技団体も快挙を喜ぶとともに、できる限り応援しています。

また、競技として取り組む市民は少なくとも、多くの子供や市民が毎年冬になれば家族や友達とスケートを楽しむ、老若男女が生涯スポーツとして取り組むことができるスポーツの場を存続することで、浜田市が得られるメリットは大きいと考えます。

市長は、現在のスポーツ施設再配置・整備計画とは違う視点で「外部から人を呼び込む施設として、活用について検討」を指示してくださっていますが、①判断を行う時期、②判断材料（調査や検討の項目）、③判断基準（それらがどうであれば存続したほうが良い、または用途変更したほうが良いのか）、といった内容について、担当課に質問しても具体的な回答がもらえない状態です。

上記①②③を含め、サン・ビレッジ浜田アイススケート場の方向性の検討について、調査・検討を計画的に行い、その説明を行っていただけるよう、執行部に働きかけて下さいますようお願い申し上げます。

浜田市国分町

三島 淳寛

令和4年 11月 17日

